令和６年　５月１日
府中市立南町小学校
校長　渡邊　和子

令和６年度　府中市立南町小学校　経営計画

はじめに

府中市立南町小学校は、昭和４９年開校認可を得、翌昭和５０年、南町３丁目６番地に南町小学校として開校して以来、今年で４９年となります。

〔校章の由来〕　周りの「M」の文字は、MINAMI のＭを表し、中心の「小」は、小学校を表すと共に多摩川を意味しています。そして、「M」と「小」の間に、府中市の木であるケヤキの葉があしらわれています。

これまでの学校運営にご尽力された皆様に敬意を表し、バトンを受け継ぎ、地域に愛される小学校、よき校風を誇りとして守り、更に発展させてまいる所存です。アフターコロナから丸１年が経ち、現行の学習指導要領施行から６年目を迎え、「GIGA スクール構想」を始め、「東京都教育ビジョン」（第５次）、「第３次府中市学校教育プラン」の下、本校の教育活動を推進していきたいと考えます。

これからの学校には、　「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。」　（学習指導要領より）

６年間を通して、子供たちが基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、それらを活用して課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、学びに向かう力、人間性を涵養してまいります。学校運営の手だてとして「地域協働、チーム南町小、笑顔の学校」をキャッチフレーズにして職員一同、尽力してまいります。

府中市立南町小学校　教育目標

「たくましい子」　主体的に学び、健康な体作りをするたくましさ【実践力】
「思いやりのある子」　自分も人も大切にするやさしさ【人間関係形成力】
「努力する子」　社会の一員として社会や自分の課題にチャレンジ【問題解決力】

１　目指す学校

《南町小学校の特色》

南町小の宝　「ひびきあう心」（みどりのしまのブロンズ像）３つの心

１　人のいたみのわかる子
２　人のあたたかみのわかる心
３　助け合い　認め合い　励まし合う　ひびきあう心
◎　元気な歌声。　　◎　素直。　　◎　思いやり。　　◎　団結力。

《教育の重点》

自慢できるクラス、学年をつくろう。誇れる学校をつくろう。
「みんなは一人のために　一人はみんなのために」～　One for all　All for one　～

《教育内容》

（１）「たくましい子」　主体的に学び、健康な体作りをするたくましさ【実践力】
ア　元気に外で遊べるようにする。
イ　体力向上を目指した活動にすすんで取り組む。
ウ　何事にも最後まで頑張ることができるようにする。
エ　責任を負う活動や役割をもち、達成感や自己有用感をもてるようにする。
オ　自己肯定感をもち、意志決定力を育み、すすんで活動する。

（２）「思いやりのある子」　自分も人も大切にするやさしさ【人間関係形成力】
ア　礼儀正しい挨拶が、すすんでできるようにする。
イ　友達を信頼し、助け合ったり高め合ったりできるようにする。
ウ　互いの違いを認められるようにする。
エ　感謝の気持ちをもち、伝えられるようにする。
オ　合意形成力を育み、課題を解決できるようにする。

（３）「努力する子」　社会の一員として社会や自分の課題にチャレンジ【問題解決力】
ア　学習規律・学習習慣を身に付ける。
イ　学習の基礎・基本を確実に身に付ける。
ウ　知識及び技能を身に付ける。
エ　思考力、判断力、表現力を養う。
オ　主体的に学習に取り組む態度を養う。（SDGｓの考え方に基づく）

（４）道徳教育の充実
ア　人権尊重の観点から、人権を守り、自他を大切にする心情を養う。
イ　あらゆる偏見や差別をなくす教育、いじめ未然防止の教育に取り組む。
ウ　生命尊重の精神、規範意識を高め、育む。
エ　「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」を推進し、豊かな人間性を育む。
オ　「特別の教科 道徳」を要とし、教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図る。

《目指す教職員像》

「地域協働・チーム南町小・笑顔の学校」

（１）教職員がそれぞれの持ち味を発揮し、創意とチャレンジの気概をもって活躍し、協働できる組織力の高い職場づくりを推進する。
（２）「OJT」に取り組み、学び続ける。
（３）「分かる・できる」「確かで豊かな学びのある」授業を実践する。
（４）児童の「安全・安心」に常に配慮し、行動する。
（５）教育相談体制を整え、特別支援教育を推進する。
（６）学校を保護者、地域に開き、連携する。「５０周年行事準備」
（７）法令遵守、服務規律の徹底。
（８）矢崎小学校・府中第三中学校との小中連携、一貫教育を推進する。
（９）働き方改革「男性職員の育業取得の促進」
（１０）危機管理

２　中期的目標と方策

具体的な目標	３年後	５年後
（１）児童の自己肯定感（自己評価）	８０％以上	８５％以上
（２）基礎・基本の学力の定着	８５％以上	９０％以上
（３）読書量、年間、学年×1000 ページ	７５％以上	８０％以上
（４）挨拶のできる児童（学校評価・自己評価）	９０％以上	９５％以上

	３年後	５年後
（５）	学年専科制を高学年の「外国語活動」「外国語」以外にも拡充する。	学年専科制を中・高学年の「外国語」、中学年の「外国語活動」以外にも拡充する。
（６）	府中第三中との系統的指導の推進。「外国語・英語」「保健体育」「図工・美術」から、乗り入れ授業、体験活動を広げる。 ●小中連携挨拶運動に取り組む。 ●陸上記録会の指導を府中第三学校の教員や陸上部生徒から受ける。	府中第三中との系統的指導の推進。「外国語・英語」「保健体育」「図工・美術」「音楽」「国語」から、乗入れ授業、体験活動を広げる。 ●小中連携挨拶運動に取り組む。 ●陸上記録会の指導を府中第三中学校の教員や陸上部生徒から受ける。 ●府中第三中学校、生徒からの読み聞かせを聞く。

（7）	「南町小地域防災連絡会」を中心に ア　水害避難訓練（１学期） イ　地域防災訓練（２学期） を実施する。府中第三中学校とも連携する。	「南町小地域防災連絡会」を中心に ア　水害避難訓練（１学期） イ　地域防災訓練（２学期） を実施する。府中第三中学校、片町文化センターとも連携する。

以上の項目の目標を達成するために、地域や府中第三中学校区の小、中学校で連携、協働し、互いの教育活動について、切磋琢磨し高めていく。それぞれのスクール・コミュニティ協議会、防災組織と校長連絡会や小中一貫教育コーディネーター連絡会の活動を重視し、拡大、充実したものにしていく。

３　今年度の取組目標と方策

（1）　教育活動の目標と方策

「たくましい子」　主体的に学び、健康な体作りをするたくましさ【実践力】

ア　元気に外で遊べるようにする。

●中休み、昼休みと誘い合って自由に遊ぶ時間と、大勢での外遊びができるように、学級や学年で係をつくり、計画的に遊ぶ時間をもつ。

イ　体力向上を目指した活動にすすんで取り組む。

●年間を通して朝の時間を活用し、「南チャレエクササイズ」を実施する。

●全学年、学級で「ふちゅうロープチャレンジ」（長縄８の字連続とび）に参加する。また、できるだけ「ダブルタッチ」にも参加する。

ウ　何事にも最後まで頑張ることができるようにする。

●生活・学習の場面、行事の練習や準備などで最後まで頑張る体験活動を通して指導し、評価する。

●「キャリア・パスポート」を通して、目標をもち、最後まで粘り強く頑張る児童を育てる。

エ　責任を負う活動や役割をもち、達成感や自己有用感をもてるようにする。

●当番や係活動など、日常の責任を負う活動や役割を通し、体得できるようにする。班長、グループ長、委員長など、リーダーを体験しできるようにする。

オ　自己肯定感をもち、意志決定力を育み、すすんで活動する。

●毎日の教育活動の中で、一人一人の子供のもつよさに気付き、認め合えるように、「教師の励まし」や「子供からの称賛」を伝える。

●どの子供も励ましや応援を受けられるようにする。

●自慢できるクラス、学年づくりに貢献できるようにする。

「思いやりのある子」　自分も人も大切にするやさしさ【人間関係形成力】

ア　礼儀正しい挨拶が、すすんでできるようにする。

●「生活スタンダード」を徹底する。

●年間を通して縦割り班で「あいさつ運動」に取り組む。

イ　友達を信頼し、助け合ったり、高め合ったりすることができるようにする。
●言葉の使い方や態度について指導し、学級や学年、異学年の仲間と仲良く生活できるようにする。（１学期に「ふわふわ言葉」に取り組む。）
ウ　互いの違いを認められるようにする。
●児童一人一人の良さを認め、伸ばす。
●たてわり班活動を自分の役割を達成し、楽しむことができるようにする。
エ　感謝の気持ちをもち、伝えられるようにする。
●２，３学期に「ありがとうの木」の取組を実施する。３学期には地域に広げる。
オ　合意形成力を育み、課題を解決できるようにする。
●学級や学年、縦割り班、クラブなど、集団での課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図る。

「努力する子」　社会の一員として社会や自分の課題にチャレンジ【問題解決力】

ア　学習規律・学習習慣を身に付ける。
●「学習スタンダード」「授業スタンダード」を徹底する。
●家庭学習の習慣を確立する。
イ　学習の基礎・基本を確実に身に付ける。
●基礎、基本の徹底、反復。「ドリル学習」「e ライブラリー」を活用する。
ウ　知識及び技能を身に付ける。（「何を知っているか。何ができるか。」）
●学習のめあてを理解し、それに向かって努力し、振り返りを大切にする。
エ　思考力、判断力、表現力を養う。（「知っていること、できることをどう使うか。」）
●知識・技能を活用して課題解決に必要な力を育む。
●充実した言語活動を通して、学習の基盤をつくる。
●充実した情報活用活動を通して、情報活用能力（情報モラルを含む。）を育む。
オ 主体的に学習に取り組む態度を養う。（「どのように社会・世界と関わり、よりよい生き方にするか。」）
●自分で目標を立てられるようにし、意思決定力を育む。
●読書にすすんで取り組む。
●「詩の暗唱」にすすんで取り組む。

「道徳教育の充実」

ア　人権教育の観点から、人権を守り、自他を大切にする心情を養う。
●人権が守られているキーワード「安心して、自信をもって、自由に選べる」ことを理解し、実践する。（「人権作文コンクール」に参加）
イ　あらゆる偏見や差別をなくす取り組み、いじめ未然防止に取り組む。
●弁護士会の「いじめ未然防止」の授業を通して「いじめ」を許さない校風をつくる。

●日々の教育活動を通して、偏見、差別、いじめの芽を見逃さない。
●「いじめ対策委員会」を迅速に運営する。

ウ　生命尊重の精神、規範意識を高め、育む。
●「いのち」のかけがえのなさについて、学ぶ特別週間を創設する。

エ「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」を推進し、豊かな人間性を育む。
●オリパラ教育の継承、ふるさと学習、地域学習の活性化を図り、府中を愛する心を醸成する。
●SDGｓ（国連）2030 年に向けて世界が合意した持続可能な開発目標、５つの分類・１７の目標。ESD（ユネスコ）持続可能な社会の創り手を育む教育の視点をもつ。

オ　「特別の教科　道徳」を要とし、教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図る。
●「道徳授業地区公開講座」を計画し、家庭や地域との共通理解、連携を図る。
●「特別の教科 道徳」以外の授業の特質に応じて、適切な道徳教育を行う。
●教育活動全体の中で、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育て、道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める。

目指す教職員像の目標と方策

（１）教職員がそれぞれの持ち味を発揮し、創意とチャレンジの気概をもって活躍し、協働できる組織力の高い職場づくりを推進する。

ア　「子供のための教育」で一致できる教職員のチーム力を高める。
イ　学年部、事務部を基底に、合理的な校務分掌を組織し、自主的に協働する。
ウ　主幹会、分掌主任会、職員会議でコンセンサスを得、教育課程を推進する。
エ　職員夕会、生活指導夕会で情報を共有し、共通認識、共通実践に努める。
オ　「学校経営支援事業予算」「副校長等校務改善事業予算」を 100％活用し、適宜、適切に支援員を配置、執行する。

（２）「OJT」に取り組み、学び続ける。

ア　社会人、組織人、プロ教員・プロ学校職員としての資質・能力の向上に努める。
イ　毎月１１日を「人権の日」と設定し、「人権プログラムのチェックリスト」で定期的に確認し、人権感覚を磨く。
ウ　都や市の研究制度を活用し、今日的課題にすすんで取り組み、校内に還元する。
エ　「OJT 研修会」を通して、若手、ベテランの枠をはずし、スキルを学び合う。

（３）「分かる・できる」「確かで豊かな学びのある」授業を実践する。

ア「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善に取り組む。
イ　教師自らが率先垂範し、「南町小授業・学習スタンダード」の改善、徹底に努める。
ウ　全ての児童が「分かった・できた」と感じられるよう、ユニバーサルデザイン

の考え方を基調とした授業に努める。

エ プログラミング教育の意義や学習のねらいを理解し、プログラミング的思考力の育成など、身に付けるべき資質・能力の育成を図る。

オ 「特別の教科 道徳」については、「考える道徳、議論する道徳の授業」を目指し、資料や板書のデータ化により、授業の教材、教具の共有財産を増やす。

カ キャリア・パスポートの活用実践に取り組み、キャリア教育を推進する。

キ 「GIGA スクール構想」の推進。一人１台のタブレット端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、子供たちを誰一人取り残すことなく公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境を実現する。情報教育推進担当を中心として、一人１台の端末をいかに活用するか、研修を計画し、全教員が具体的なスキルを身に付ける。

ク 「TGG」英語体験活動（５年生)、「英語 WEEK」（全校）に取り組み、英語を用いたコミュニケーションを図る機会をもつ。

ケ 指導と評価の一体化に取り組む。

（４）児童の「安全・安心」に常に配慮し、行動する。

ア 「生活・交通・災害」安全教育の３領域の指導を連携して計画的に実施する。

イ 学校生活を通して、危険を予測し回避する能力や、自助・共助・公助の意識を育み、高められるよう留意する。(「南町小地域防災訓練」の取組)

ウ インフルエンザ、新型コロナウイルスなどの、感染症予防の生活様式、生活習慣を徹底する。

（５）教育相談体制を整え、特別支援教育を推進する。

ア 学級経営の充実を図り、集団場面での指導や援助を行うガイダンスと個々の児童の多様な実態を踏まえた個別のカウンセリングにより、児童の発達を支援する。

イ 特別支援コーディネーターを中心に校内委員会の充実を図る。

ウ スクールカウンセラーとの連携の下、配慮を要する児童へ適切な指導を行う。

エ 教職員の特別支援教育への理解や、「仲よし学級」との日常活動の交流、「ひばり」の教育活動との連携を深める。

オ 副籍交流を実施するなど、インクルーシブ教育の理解に努める。

カ 「サポートルーム」の組織的な運営に努め、運用について、学級担任、支援員、保護者との連携を図り、推進、改善していく。

（６）学校を保護者、地域に開き、連携する。

ア PTA、スクール・コミュニティ協議会、南町小地域防災連絡会、おやじの会、青少対、町会、府中 PFS と連携し、地域に根差したよりよい教育活動を推進する。

イ 学校から地域の行事や市の事業などに積極的に参加する。（参加の呼び掛け）

ウ ホームページやブログの定期発信及びスマート連絡帳の一斉配信など適宜、適切に情報発信に努める。

エ 「教育課程」及び「学校経営計画」と「学校評価」を照らし合わせ、よりよい学

校づくりに活用する。

オ　「南町小地域防災連絡会」と連携し、「水害避難訓練」（１学期）、「地域防災訓練」（２学期）を実施する。

カ　「５０周年行事準備委員会」の立ち上げ　来年度５０周年を迎えるに当たり、PTA 本部、PTA 顧問会、スクールコミュニティ協議会と連携して「周年準備委員会」を６月以降、立ち上げる。

（７）法令遵守、服務規律の徹底。

ア　「報告・連絡・相談・記録」を徹底する。（よくないこと程、早くを合言葉に）

イ　服務事故防止研修を計画的に実施、充実したものとする。【服務事故０の継続】

ウ「学校徴収金事務取扱規定」の下、学校徴収金の管理、取扱いに万全を期す。

エ「情報セキュリティ実施手順」を基に、教育情報を適切に管理、運営する。

（８）矢崎小学校・府中第三中学校との小中連携、一貫教育を推進する。

ア　義務教育９年間の各教科・領域における「学び」と「育ち」のカリキュラム接続を含めた、系統的指導、継続的な指導に取り組む。

イ　管理職の定期的な情報交換を実施する。

（９）働き方改革

ア　教員が本分の業務（授業準備、学習評価、生活指導、行事の準備など）のために時間を使えるよう、「学校経営支援事業」・「副校長等校務改善事業」を 100%有効に活用する。

イ　教員一人一人の健康保持の実現を図り（メンタルヘルスチェック）、子供に笑顔で接することができるようにする。

ウ　男性教職員の育業取得を促進できるように校内体制を整える。

エ　全校アウトリーチ型相談事業を実施する。

（１０）危機管理

ア　「府中市いじめ防止対策推進条例」（令和５年４月１日施行）「学校いじめ防止基本方針」（令和５年４月１日改訂）に基づき、年に３回以上の「いじめアンケート」、ＳＣによる全員個人面談（５年生児童を対象）を実施する。

イ　いじめ等の早期発見に努め、迅速に「いじめ対策委員会」をもち、適宜、適切な組織的対応を取る。

ウ　「アレルギー対策委員会」を開き、今月の献立における食材について確認、アレルギー児童の家庭との連携を確実に取り、安全・安心な給食に万全を期す。

エ　「情報セキュリティ委員会」を計画的に開き、研修会をもち、教育情報セキュリティの管理運営に万全を期す。

（２）重点目標と方策

１　「たくましい子」

オ　自己肯定感をもち、意志決定力を育み、すすんで活動する。

【目標：自己評価 75%以上】

●毎日の教育活動の中で、一人一人の子供のもつよさに気付き、認め合えるように、「教師の励まし」や「子供からの称賛」を伝える。

●どの子供も励ましや応援を受けられるようにする。

●自慢できるクラスづくり、誇れる学年づくりに取り組む。

・児童のよいところ、頑張っているところを教室、職員室の話題にし、情報共有できる仕組をつくり、学校中で共有する。

・「今日のがんばりさん」、「今日の MVP」など、あらゆる場面で真面目に努力した子供が認められるようにする.。

・２学期末に、クラス・学年自慢を全校朝会で発表する。

２「思いやりのある子」

ア　礼儀正しい挨拶が、すすんでできるようにする。

【目標：学校評価８５%以上　自己評価８５%以上】

●「生活スタンダード」を徹底する。

●年間を通して縦割り班で「あいさつ運動」に取り組む。

・あいさつ当番を体験し、挨拶の大切さに気付くことができるようにする。

・代表委員会と連携して、「あいさつ名人」運動に取り組む。

・毎朝校長が門に立ち、登校する児童に笑顔で挨拶する。

３「努力する子」

オ 主体的に学習に取り組む態度を養う。

●自分で目標を立てられるようにする。意思決定力を育む。

●読書にすすんで取り組む。

【目標：３年生以上 学年×１，０００ページ以上、達成率７０%

１年生１００冊以上、２年生２００冊以上、達成率 ８０%以上】

・全校一斉の朝読書、年３回の読書週間に取り組む。(「おすすめ本カード」の作成、掲示や「読書郵便」、「親子読書」の活動を通して、校内で図書の情報を共有し、読書の楽しさを共感できるようにし、読書の習慣を身に付けられるようにする。)

・「読書貯金」や「読書レストラン」など、発達に合わせた読書カードを活用し読書活動の振り返りができるようにする。

・担任、学校司書の読み聞かせをはじめ、「絵本の森（保護者有志)」、「よつばの会（読書ボランティア)」の読み聞かせや語りを通して読書に親しむ。

・読書の記録を丁寧に指導することを通して、学年×１０００ページが達成できた児童には、全校朝会で表彰し、称賛する。

・４，５，６年生で「ビブリオバトル」の体験学習を実践する。

教職員の重点目標と方策

（３） 教員は「分かる・できる」「確かで豊かな学びのある」授業を実践する。

【目標：学校評価８０％以上】・週案簿の提出、１００％を継続する。

ア 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。

①資質・能力を育成するために教科の授業を中心に全ての教育活動において、以下の４つの視点、「発見」「対話」「決定」「表現」を取り入れた活動を実施する。（週案への記載、黒板への提示）

②校内研究の研究主題を「運動に親しみ、自ら健康を促進できる児童の育成～『やりたい・みんなと・よし！できた！』を実感する南っ子～」

とし、令和５・６年度の東京都教育委員会　体育健康教育推進校として１月１７日に研究発表会を行い、市内外に研究の成果を発表する。

イ　教師自らが率先垂範し「授業・学習スタンダード」の改善、徹底に努める。

ウ　全ての児童が「分かった・できた」と感じられるよう、ユニバーサルデザインの考え方を基調とした授業に努める。

エ プログラミング教育の意義や学習のねらいを理解し、プログラミング的思考力の育成など、身に付けるべき資質・能力の育成を図る。

オ　「特別の教科 道徳」については、「考える道徳、議論する道徳の授業」を目指し、資料や板書のデータ化により、共有財産を増やす。

カ 「キャリアパスポート」の活用実践に取り組み、キャリア教育を推進する。

キ　GIGA スクール構想の推進。一人１台のタブレット端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境を実現する。

・電子黒板などＩＣＴ「Information and Communication Technology（情報通信技術）」を活用した授業を推進する。

・GIGA（Global and Innovation Gateway for All.）スクール構想を推進し、情報教育推進リーダーを中心として、各学年から一人が委員となる GIGA 推進委員会を組織し、一人１台の端末をいかに活用するか、研修を計画し取り組み、全教員が具体的なスキルを身に付け、一人一人の資質、能力を確実に育成できるようにする。

・ユニバーサルデザインをはじめ、子供一人一人の成長を促す指導や支援の在り方を常に追求し、実践する。

・授業観察時は授業実践の学び合いの場とし、全教員に事前に略案を配付する。授業を通して、自評、改善点等、双方向で授業の展開や指導技術について、話し合う。

・教科担任制の推進。（外国語活動・外国語）

・都及び市内の研究協力校の様々な研究成果に学び、府中市立小中学校研究会の各部に所属し、指導力を高め、指導技術を身に付ける。

（４）児童の「安全・安心」に常に配慮し、行動する。

【目標：学校評価８０％以上】

ア 「生活・交通・災害」安全教育の３領域の指導を連携して計画的に実施する。

イ　学校生活を通して、危険を予測し回避する能力や、自助・共助・公助の意識を育み、高められるよう留意する。（「南町小地域防災連絡会」の取組）

ウ　インフルエンザ、新型コロナウイルスなどの、感染症予防の生活様式、生活習慣を徹底する。

・危機管理体制のマニュアル化。保護者、地域への十分な情報周知に努める。

・環境整備、予防的安全指導の工夫及び改善に取り組む。

（６）学校を保護者、地域に開き、連携する。

【目標：学校評価８０％以上】

ア　PTA、スクール・コミュニティ協議会、おやじの会、青少対、町会、府中 PSF と連携し、地域に根差したよりよい教育活動を推進する。

イ　学校から地域の行事や市の事業などに積極的に参加する。（参加自己申告）

ウ　ホームページやブログの定期発信及びスマート連絡帳の一斉配信など適宜、適切情報発信に努める。

エ 「教育課程」及び「学校経営計画」と「学校評価」を照らし合わせ、よりよい学校づくりに活用する。

オ 「南町小地域防災連絡会」と連携し、水害避難訓練、地域防災訓練を実施する。

・カリキュラムマネジメントの推進に取り組み、児童の自己評価、保護者の学校アンケートを改善し、教育課程、教育計画との連動を強化する。

・教育環境の充実、地域防災訓練の実施、花壇作り、漢検、計算・英単語検へのチャレンジ等、漢検応援団等、地域との協働で地域の学校を守り、育てる。

・交通安全ボランティアの方々との交流活動の実施。３ 年以上活動をされている方への感謝状の贈呈（学校＋PTA より）。

・学校教育に多大なご協力をいただいた方へ教育委員会からの感謝状を推薦する。

（９）働き方改革

【目標：全教職員　１か月の定時外在校等時間　４５時間未満】

ア　教員が本分の業務（授業準備、学習評価、生活指導、行事の準備など）に専念できるよう、「学校経営支援事業」・「副校長等校務改善事業」を 100%有効に活用する。

イ　教員一人一人の健康保持の実現を図り（メンタルヘルスチェック）、子供に笑顔で接することができるようにする。

ウ 男性教職員の育業取得を促進できるように校内体制を整える。

・Ｔコンパスの掲示板機能、スマート連絡帳の活用で校務業務の効率化、ペーパーレス化を促進し、月末の企画会で校務改善について振り返る。

・毎週水曜日を定時退勤日とし、働き方改革を計画的に推進する。